自己審査

2021年3月31日
エリザベス・インターナショナル・アカデミー

審査対象年度(期間) ： 2020年度(2020年4月～2021年3月)

＊以下、評価点は5段階評価： 5＞4＞3＞2＞1

1、 教育の理念・目標

現状	評価点	コメント
現行の理念 (1)コミュニケーション能力の育成	4	来日時点で日本語による表現ができる学生が複数いた。 しかし、全体として聴解能力に難があり今後各自努力せねばならない。
(2)国際社会で活躍できる能力の育成	3	国際社会ということの前に、この日本でまず環境適用し、その中で自身の能力向上に思いをはせる学生少なし。
(3)日本語能力試験N1・N2の合格	2	合格者数はN1、N2ともに合格者はいなかった。性根を据えて指導に励まねばならない。

2、 学校運営

現状	評価点	コメント
2020年度は新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大するなかで、当校も留学生は2020年11月までは入国できなかった。しかし、学校側のサポートにより、学習環境は従前のものと同等のサービスを提供できたと考えている。	5	2020年度は左記の通り、新型コロナウイルス感染症拡大により留学生の入国が遅れ、経営的にもマイナスな面が出ていた。 学内においては体温も測定できる消毒剤は出入り口に置き、学生が来校した際は必ず消毒してもらうように指導し、新型コロナウイルス感染症対策には万全な体制を整えている。

3、 教育活動

現状	評価点	コメント
学習評価修了等、学則第10条から13条に謳っているとおり実施中。 適時、授業への学生の適応、進捗状況等を勘案しながら、教材選択や学生の習得向上に対応。	4	在籍数減少にともない、個々の問題点が見つけられやすくなり早めの弱点対策が立てられるようになった。2020年度においては基礎的な文法指導に力をいれ、なによりも日常生活においての会話ができるように取り組んだ。今後もその指導に力をいれたい。

4、 学修成果

現状	評価点	コメント
2019年度入学者がいなかったため2020年度は卒業はいない。 日本語能力試験などの外部試験の結果を把握している。	2	2019年度入学者がいないため、2020年度卒業者はいない。誠に恥いるばかりである。入学者が毎年一定数確保できるように工夫、改善していく必要がある。 日本語能力試験合格者がゼロのため性根を据えて指導していく。

5、 生徒支援

現状	評価点	コメント
生活指導、入学時オリエンテーションで説明後 適時指導に当たっている。また緊急時等、本人から 校長への連絡網をつけており、その際は校長が瞬時 即応できる体制を整備してある。 告示基準にある健康診断は2020年度は2回実施。	5	欠席者、遅刻者への面談やアルバイト調査を積極的に行い、 きめこまかく学生指導をしている。今後とも様々な点で留学生活の 指導・支援の充実を図っていく。 告示基準にある通り、健康診断を学校責任において2020年秋と 2021年3月に実施した。

6、 教育環境

現状	評価点	コメント
・施設設備面、告知基準に従い、特に問題なし。 ・教材関係、初級レベルは「みんなの日本語」 を中心に使用。初中級以上は「学ぼう日本語」 を中心に使用。	3	左記の通り、特に問題ない。 なお、日本語能力試験の前は、試験対策教材を使用する。

7、 入学者の募集

現状	評価点	コメント
募集については、4月及び10月に合わせ、 実施。特に募集時説明と実際の内容が 食い違うといった事例はない。 授業料等の金額面、特に問題ない。	5	現行通り実施。 なお、募集時期については今後、4月・10月の他 7月・1月にも実施すべく検討中。 なお、今後の募集時、入学のための支払い経費については その明細内容も明確に伝えることとする。

8、 財務

現状	評価点	コメント
学校収益として、前年度に引き続き赤字 になるはずである。 個人設置の学校であり、更に1～2年赤字が続いて も、財務基盤は問題なしとの設置者の見解である。 また、財務会計については税理士の指導の下に 行っている。 財務情報の公開については、個人事業につき 公開体制をとっていない。	2	累積赤字を早期に解消することは難しいが、基本的には学校の 収容定員である70名の学生を確保することが肝要である。 同時に、当校の施設として3教室あるのであるから収容定員として は、120名まで可能なはずである。 中期的には120名の定員にすることにより、収益の改善は なされるはずである。そのために学校として、まずは告示基準に従い 常に「適正校」であることを認められるべく改善していかねば ならない。

9、 法令順守

現状	評価点	コメント
出入国在留管理局、関係官庁などへの届出、報告 を遅滞なく行っている。	4	日本語教育機関の告示基準に則した出入国管理が行われている。

10、 地域貢献・社会貢献

現状	評価点	コメント
現状、特に行っていない。	2	今後、学生の状況を見ながら、紹介・支援等したいと考える。

総論

11、

当校では「(1)コミュニケーション能力の育成、(2)国際社会で活躍できる能力の育成、日本語能力試験N1・N2合格」とミッションとして掲げており、試験合格のみならず進学先においても必要とされる能力を身につけられるように実践的な日本語教育を行っている。学生がしっかりとした目標・目的をもって効率よく学習できるよう、個々の現状を把握し、適切なサポートを行うことを重視するとともに、その留学生活のサポートにおいても「安心して学習ができる環境づくり」実現にむけて邁進していきたいと考える。 設置者も同様の見解を持っている。設置者と教職員が常にマインドをひとつにして改革を断行していかねばならない。 また、目的意識の醸成は入学前の募集活動時点から特に力を入れている。面接と書類選考でそのことを確認した上で受け入れている。そのためにも上記に記載した通り卒業生がいないという状況を二度と繰り返してはならず、募集担当者は募集活動をするうえで目的意識の高い学生の募集に力点を置かねばならない。今後の募集において肝に命じておかねばならない。 今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により授業の形態の変更など変化を余儀なくされたが、当校では国際社会への有為な人材育成を目指すことを教育方針にしてきたことからオンライン授業の導入を2020年5月初旬に設置者の指導のもと開始し、そのシステム担当の責任者を配置し、危機に即時即応できる対策を講じるシステムを構築した。 当校は法務省から2020年度適正校としての認定を受けていたが、2021年度は残念ながら非適正校になることになった。常に適正校の認定を受け続けるべく改善・改革を繰り返し強固な学校組織を作っていく必要がある。

以上